

INPEX CORPORATION is Japan's largest exploration and production (E&P) company.

INPEX will proactively engage in energy structure reforms towards the realization of a net zero carbon society by 2050, while responding to the growing energy demands of Japan and the world and fulfilling its responsibility for the development and stable supply of energy over the long-term.

Innovative
Pioneer of Energy
Transformation



INPEX Vision 2035 「責任あるトランジション」の実現とCCS

CCSバリューチェーンセミナー2025
2025年3月3日

株式会社 **INPEX**
常務執行役員
水素・CCUS 事業開発本部長
加賀野井 彰一

成長の源泉である既存プロジェクトを一層強化します

安全・安定操業を最優先し、エネルギーの安定供給と同時に、株主還元・成長投資の原資を確保します。

将来の飛躍を現実のものにしていきます

「現実的な移行期の燃料」としての天然ガスの供給力強化を軸に、相乗効果/補完効果が期待できる低炭素分野や電力関連の新たな取組みを強化し、収益基盤を拡大すると同時に2050年ネットゼロに向けて前進します。

コアエリアを中心に事業基盤を拡大し、業績の成長にあわせて株主還元を拡大していきます。

成長軸 1 天然ガス/LNG事業の拡大

イクシスLNGプロジェクトでは、安全・安定操業を継続した上で、液化能力拡張を目指します。
アバディLNGプロジェクトでは、30年代初頭の生産開始を目標に中計期間中のFID¹を目指します。
LNGトレーディング機能を強化し、より柔軟なLNG供給を実現します。
早期マネタイズが可能な有望地域で探鉱を継続します。

成長軸 2 CCS/水素をコアとした 低炭素化ソリューションの提供

これまでに培った組織能力・既存技術を活かし、エネルギーの低炭素化に取り組めます。
当社が参画する天然ガス/LNGプロジェクトとCCSの組み合わせによるGHG排出抑制に加え、第三者向けのGHG削減ソリューションの提供やクリーン水素の供給を推進します。

成長軸 3 INPEX「ならでは」の強みを活かした エネルギー・資源分野での新たな挑戦

総合エネルギー開発企業として、電力関連分野での事業展開を目指します。
再エネに蓄電池やクリーンガス火力発電²といった調整電源を組み合わせ、クリーンかつ高付加価値な電力供給体制の発展に貢献します。
電力供給システムを支えるために必要となる、石油・天然ガス以外の地下資源回収にも挑戦します。

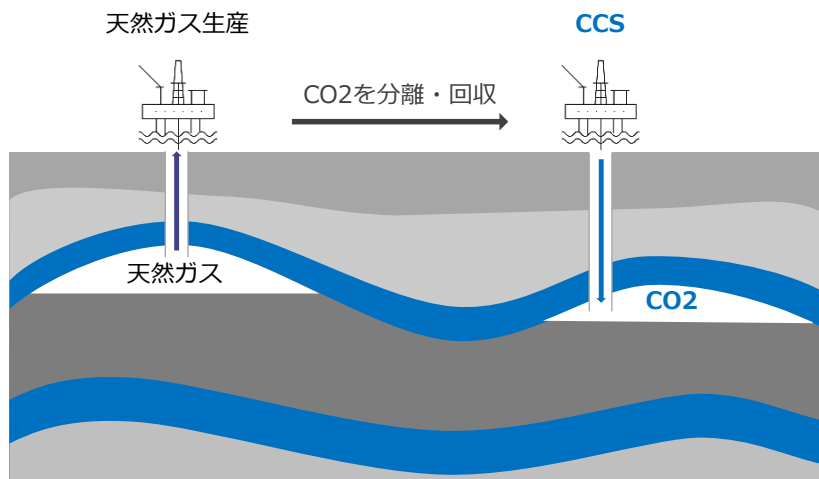
1. 最終投資決定（Final Investment Decision）のこと
2. CCSと組み合わせることやクリーン水素と混焼/専焼させることでGHGの排出を削減することを目指す

「INPEX Vision 2035」 CCS/水素をコアとした低炭素化ソリューション **INPEX**

よりクリーンな天然ガス/LNG事業を実現するため、CCSを通じインパクトのあるGHG削減を行います。
更には、第三者に対してもCCS/水素をコアとしたGHG削減ソリューションを提供し新たな収益源とすることを目指します。

CCSは、INPEXが培ってきたノウハウを活かせる GHG削減技術です

CCSとは、石油・天然ガスの生産時や利用時に排出されるCO₂を回収し、地中深くに貯留する技術のことです



CCSには、インパクトのあるGHG削減のポテンシャルがあります 自社のGHG削減に加え、第三者にGHG削減ソリューションを提供します

2035年に向けた取組みの進化/深化の方向性

- 新潟県柏崎市でブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証試験の実施
(2025年運開予定)
- 参画する全てのオペレーターLNGプロジェクトにCCSを実装し、自社で排出するGHGを削減
イクシスCCS (約200万トン/年¹)、**アバディCCS (約150万トン/年¹)**
- 第三者向けのGHG削減ソリューションを提供
首都圏CCS、日本海側東北地方CCS 等
- CCSを通じた国内外でのクリーン水素/アンモニア供給の事業化を目指す

「首都圏CCS」「日本海側東北地方CCS」の2件に参画

『首都圏CCS』は当社がコンソーシアムを主導

日本海側東北地方CCS事業

パートナー

伊藤忠商事
日本製鉄
太平洋セメント
三菱重工業
INPEX
大成建設
伊藤忠石油開発

貯留地域 貯留量 事業の特徴等

- 日本海側東北地方沖（海域帯水層）、船舶輸送含
- 約150-190万トン/年～

2024年6月28日、JOGMECは令和6年度「先進的CCS事業」委託事業として9案件を選定

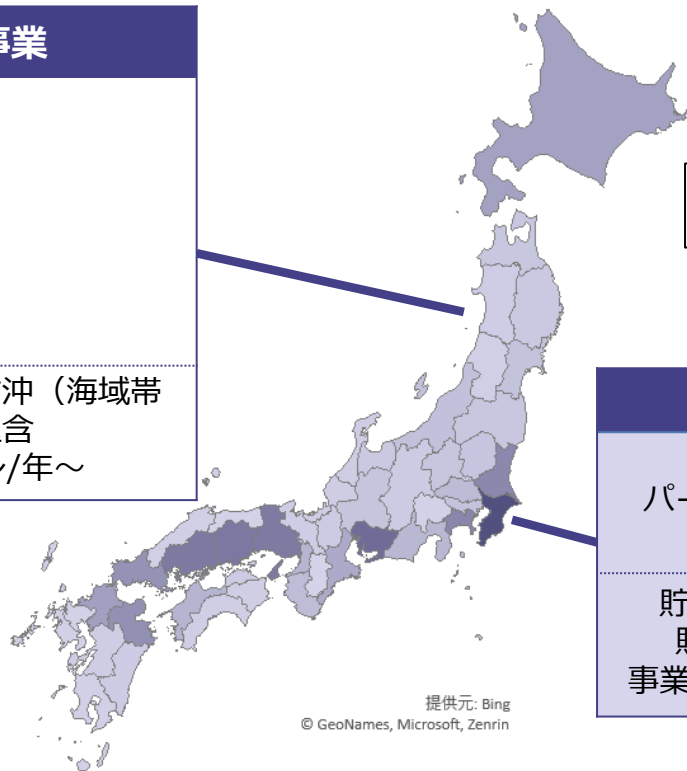
首都圏CCS事業

パートナー

INPEX
日本製鉄
関東天然瓦斯開発

貯留地域 貯留量 事業の特徴等

- 千葉県外房沖（海域帯水層）、パイプライン輸送
- 約140万トン/年～

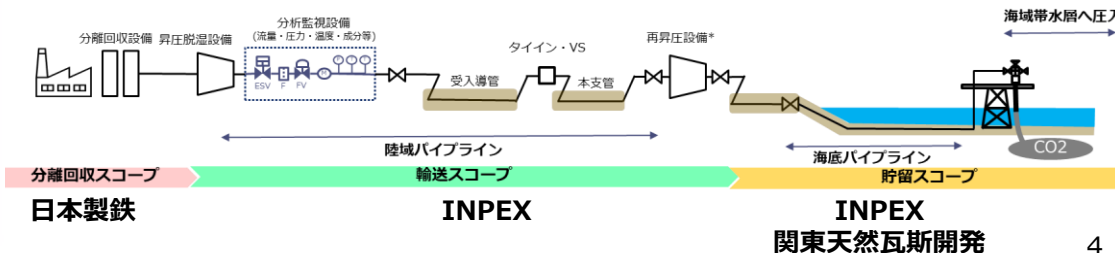


提供元: Bing
© GeoNames, Microsoft, Zenrin

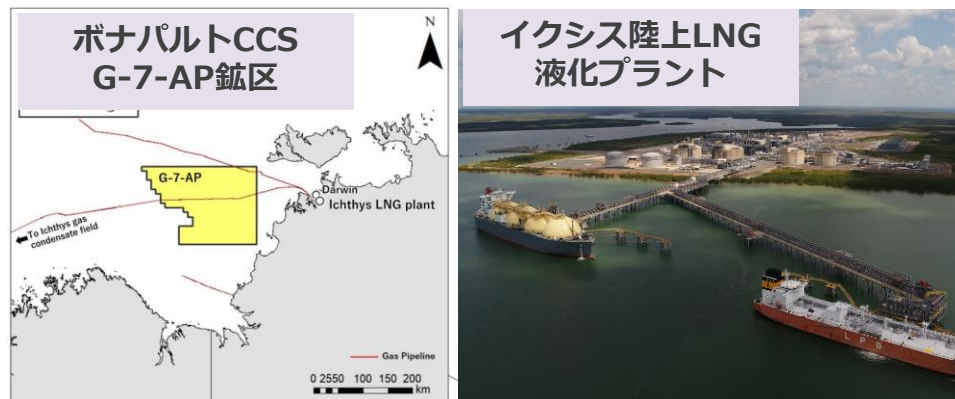
製油所や化学工場、製鉄プラント等、多くの産業が集積する京葉臨海工業地帯を擁し、日本国内で最もCO2の排出量が多い地域の脱炭素化に貢献すべく、CCS事業を推進する



会社名	株式会社INPEX、日本製鉄株式会社、関東天然瓦斯開発株式会社
貯留地域	千葉県外房沖（深部塩水層）
貯留量	約140万トン／年
排出源	日本製鉄東日本製鉄所君津地区および京葉臨海工業地帯の複数産業
輸送方式	パイプライン
事業の特徴	京葉臨海工業地帯におけるCO2排出源とCCS貯留地とを大容量パイプライン導管で結んだ拡張性の高い事業。



当社がオペレーターを務める「イクシスLNGプロジェクト」のGHG削減のためのCCSプロジェクト
日本からのCO2受入も視野に、北部準州政府が構想するCCSハブ構想への貢献も目指す



2坑の
評価井
掘削完了

世界
最大級の
貯留ポテン
シャル

2030年頃
圧入開始

JV
Woodside
TotalEnergies

1. 市場環境 対応：動向を注視しつつ業界団体を通して議論に参加
 - GX-ETS・炭素賦課金の価格予見性
 - 製品に環境価値を転嫁するための仕組みづくり
2. 支援制度 対応：将来的な自立を志向しつつ、足元の支援制度確立に貢献
 - ファーストムーバー向け支援制度の確立
 - セカンドムーバー以降の支援の必要性（事業拡張性ーコスト軽減）
3. 技術開発支援・人材育成 対応：当社の技術力を活用しつつステークホルダーとの議論を推進
 - 安全な導管輸送を始めとする、CCSバリューチェーンに関する保安・技術基準の策定
 - 科学的に裏付けされたモニタリング計画の策定
 - LCO2船舶の仕様共通化によるVCの普及、コスト削減
4. 契約の獲得 対応：市場環境・支援制度・事業者努力 + コミュニケーション
 - 受入可能なCO2輸送・貯留価格の提供
 - 事業者間のLiabilityの整理と合意形成
5. 社会受容性 対応：ステークホルダーを特定、丁寧な事業説明・傾聴を柱とする地に足ついた対話

目の前に立ちはだかる世界規模の課題。
私たちは地球の力でエネルギーを創る、
チームの力を結集する、経験と新しい発想で知恵を出し合う。
絶対に使命を投げ出したりしない。
私たちはエネルギーを探し、届け続ける。
今日も明日もこれからも、ずっと。

地球の力で未来へ挑む

INPEX

Energy for a brighter future